

事業概要

平成24年度

(平成23年度実績)

福島県総合療育センター

はじめに

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故から1年が過ぎました。震災復旧も進み、世の中は徐々に落ち着きを取り戻しているようにみえます。職員も震災直後の余震、放射線の不安な毎日から徐々に解放され、震災前の状態に戻ってきています。当センター利用者も昨年度は入所、外来とも大幅に数が減りましたが、最近は入所部門を中心に以前のような活気ある療育センターに戻りつつあります。

ところで、平成24年4月には児童福祉法が改正されました。障害児施設の一元化がはかられ、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設などの区分がなくなり、施設ごとに医療型か福祉型かを選択できるようになりました。そのなかで当センターは、入所部門は医療型障害児入所施設を選択し、また通所事業は医療型児童発達支援センターとなりました。このように福祉行政が変革をしていく中、当センターも従来の肢体不自由児施設としての役割のみで良いのかということも考えていかなければならない時期にきていると思います。

時代の変遷とともに、施設の利用方法も以前のような収容を目的とした入所から、在宅介護をしながら通所で施設を利用する方向に変わってきています。それに伴い、当センターの役割も子どもをたくさん入所させて訓練を行うという方向から、外来での日常診療各分野における質の高い医療の実践に加えて、短期入所事業や日中一時支援事業の拡大を図り、家庭を含めた支援体制の充実が求められています。また増加する発達障害をもつ児童に対する診断・相談事業も、発達障がい者支援センターの充実により県民のニーズに応えていかなければなりません。

当センターは昭和38年に郡山療育園として開設して以来、来年は50年を迎えます。50年前と比べ、当センターに対する県民のニーズも大きく変わってきています。

時代の変化に乗り遅れることなく、今後も精進を続けて参る所存ですので、当センターへのご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成24年

福島県総合療育センター
所長 武田 浩一郎

目 次

I 概要

1 設立の目的・沿革	
(1) 目的	1
(2) 沿革	1
2 業務内容	
(1) 定員	2
(2) 診療科目	2
3 組織・職員	2
4 施設概要	3

II 業務

1 肢体不自由児施設	
(1) 入所部門	7
(2) 通所(通園児童療育)部門	22
(3) 母子入所部門	26
2 診療相談	
(1) 一般入所の概要	27
(2) 外来患者の概要	27
(3) 整形外科	30
(4) 小児科	32
(5) 耳鼻咽喉科	33
(6) リハビリテーション科	33
(7) その他の診療科	36
(8) 薬剤部、臨床検査、放射線室、地域連携室	38
3 短期入所事業及び日中一時支援事業	39
4 その他	
(1) 実習生・ボランティア受入	39
(2) 公開講座	40

III 研究成果等

全国療研・東北療研等における研究発表内容等	41
-----------------------	----

IV 発達障がい者支援センター	42
-----------------	----

I 概 要

1 設立の目的・沿革

(1) 目 的

当センターは、児童福祉法による児童福祉施設であると同時に医療法による病院であり、手足または体幹の機能の不自由な児童に対し、通所あるいは入所により、治療・訓練・生活指導及び教育を有機的に行い、それに加えて総合的な外来診療部門を充実して、障がいの早期発見並びに早期治療・訓練及び教育を行うための総合療育を目的としている。

(2) 沿 革

昭和 38 年 1 月 1 日	郡山療育園開園
昭和 38 年 1 月 1 日	初代園長として医大教授 鈴木良平医師兼務発令
昭和 38 年 4 月 1 日	2 代園長として菊地稔医師発令
昭和 38 年 5 月 1 日	福島県指令第 702 号病院開設許可
昭和 38 年 6 月 1 日	児童入園開始
昭和 42 年 1 月 1 日	3 代園長として鬼満雅医師発令
昭和 43 年 8 月 3 日	皇太子殿下同妃殿下ご視察
昭和 46 年 5 月 6 日	母子入園開始
昭和 48 年 6 月 3 日	園旗・シンボルマーク・園歌の制定・記念像門柱の建設
昭和 54 年 9 月 12 日	ボイラー監視室増築
昭和 59 年 7 月 7 日	心身障害児総合療育センター並びに養護教育センター整備事業の着手(現在地において全面改築)
昭和 62 年 4 月 1 日	福島県心身障害児総合療育センターと改称
平成 5 年 6 月 1 日	創立 30 周年記念式典挙行 記念誌「30 年のあゆみ」を刊行
平成 7 年 7 月 28 日	高円宮同妃殿下ご視察
平成 11 年 4 月 1 日	4 代所長として渡辺真医師発令
平成 12 年 9 月 16 日	皇太子殿下同妃殿下ご視察
平成 14 年 4 月 1 日	5 代所長として富樫薫医師発令
平成 15 年 4 月 1 日	居宅生活支援として児童短期入所事業開始
平成 16 年 4 月 1 日	福島県総合療育センターと改称
平成 17 年 4 月 1 日	「地域連携室」設置 肢体不自由児地域リハビリテーション支援事業開始
平成 18 年 10 月 31 日	「発達障がい者支援センター」設置
平成 19 年 4 月 1 日	リハビリテーション科新設 「地域連携室」を「地域支援室」へ改称
平成 24 年 4 月 1 日	6 代所長として武田浩一郎医師発令

2 業務内容

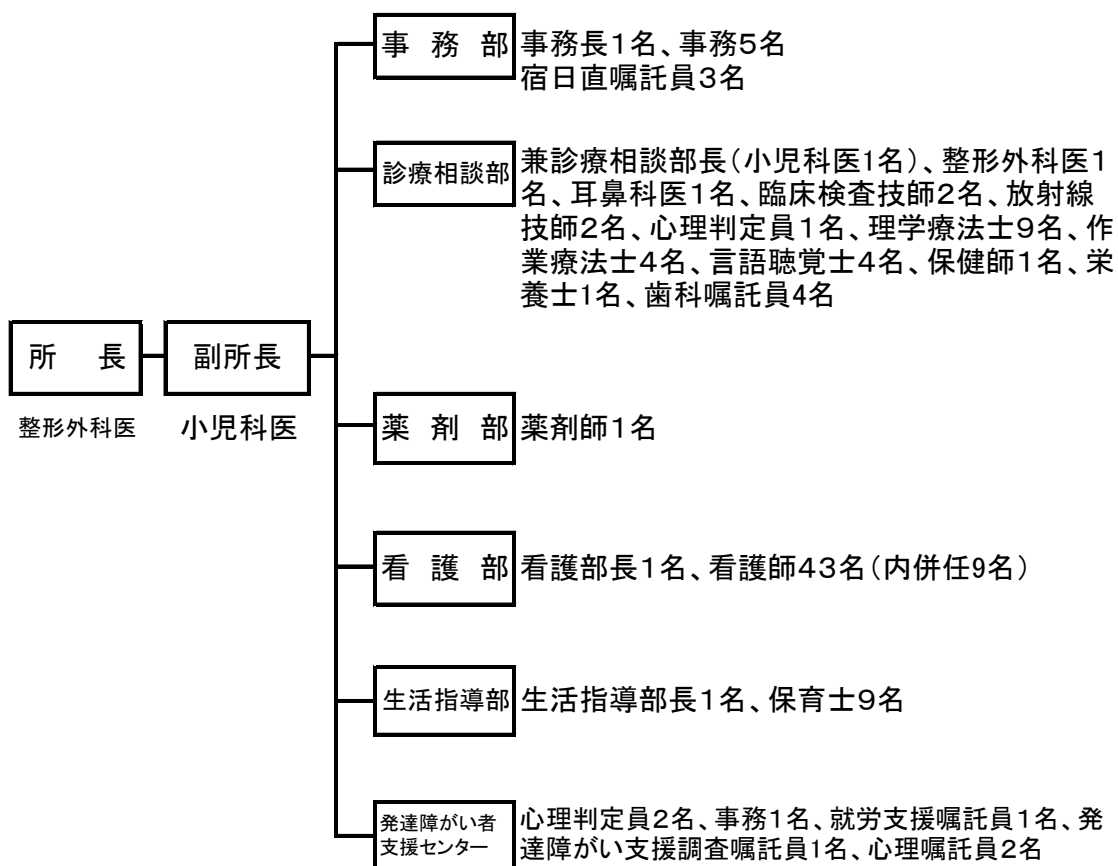
(1) 定員

- ・措置及び契約入所80名、一般入所10名
- ・契約通所20名

(2) 診療科目

整形外科、小児科、耳鼻咽喉科、精神科、眼科、泌尿器科、歯科、リハビリテーション科

3 組織・職員



正規職員 92名

嘱託員 11名

計 103名 (H24. 4. 1現在)

4 施設概要

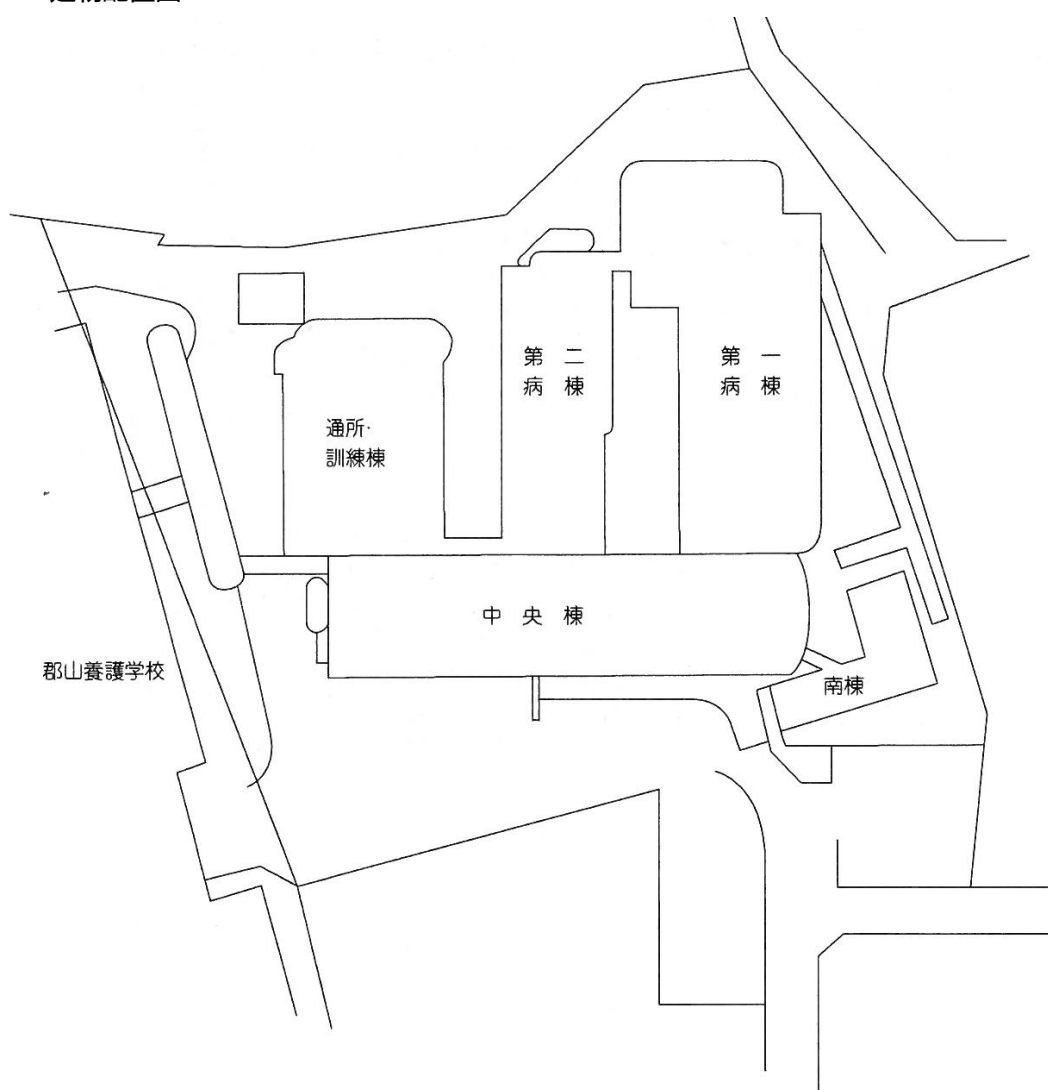
土地

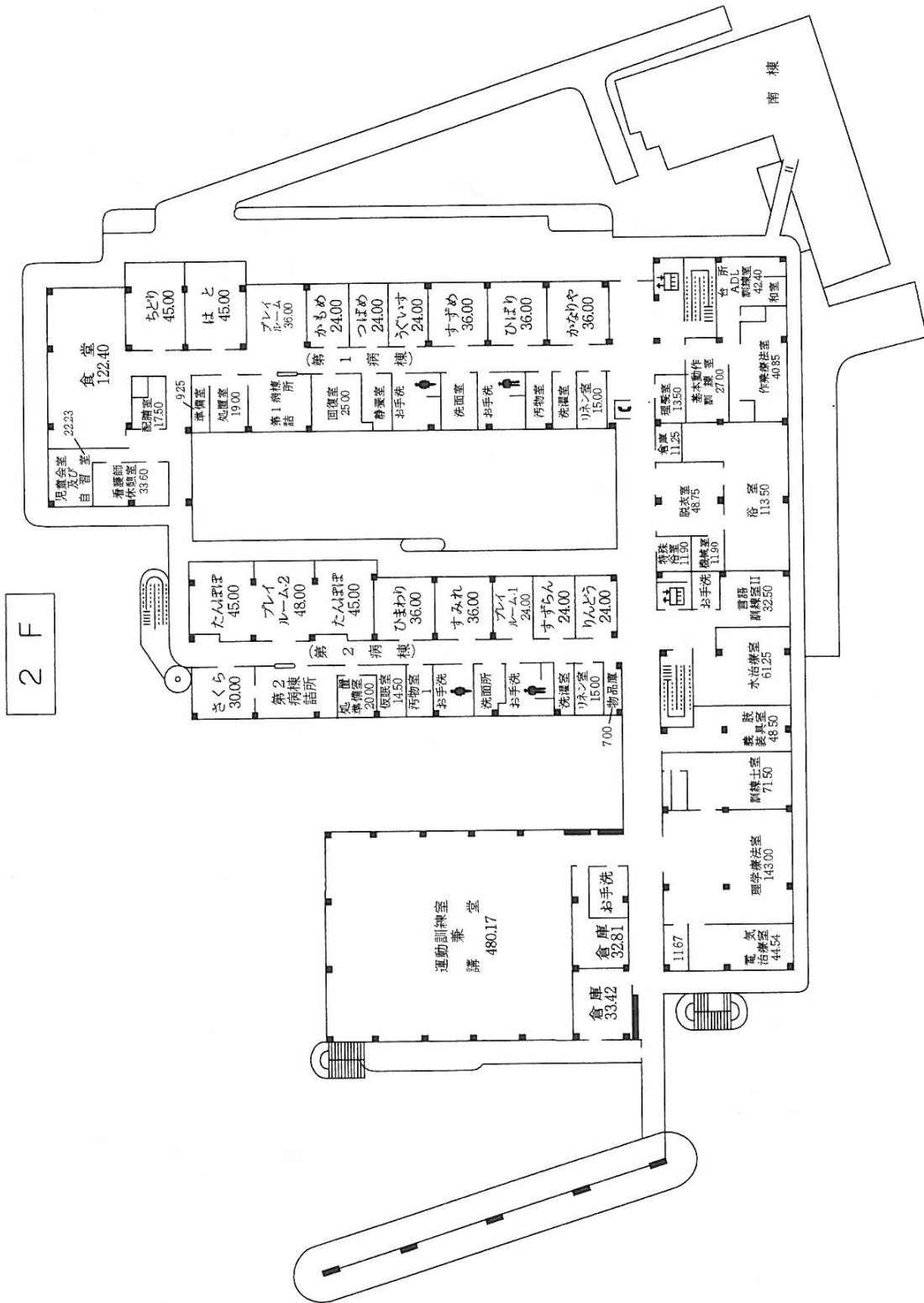
敷地面積 12,215.74 m²(内借入地 10,964 m²)

建物

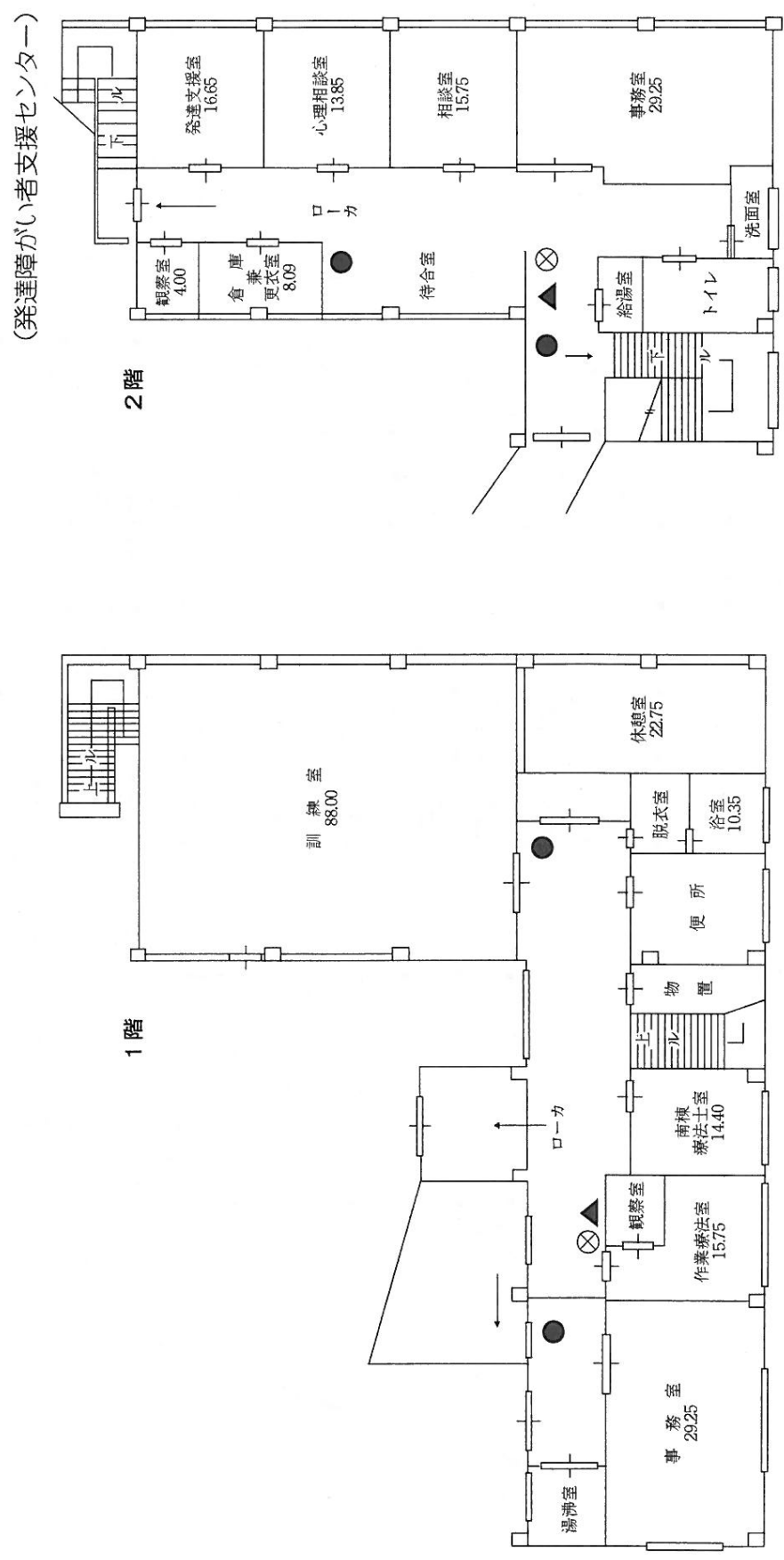
庁舎	鉄筋コンクリート造、亜鉛鉄板葺、3階建1部2階	8,662.76 m ²
	(うち養護教育センター3F	1,954 m ²)
南棟	鉄骨造、ストレート波板葺、1部2階建	433.65 m ²
倉庫	パネル組立式軽量鉄骨造、鉄板葺、平屋建	43.52 m ²
車庫	鉄骨、鉄板葺、平屋建	104.16 m ²

建物配置図





南棟



Ⅱ 業 務

1 肢体不自由児施設

(1)入 所 部 門

本年度の特徴

2つの病棟に未就学児童から高校生まで入所している。ここ数年、未就学児童の手術及び後療法目的の入所が増加しているとともに、社会的要因で入所する低年令の児童も増えてきている。また、重度障がい児の入所が増えつつある。

児童日課表及び病棟職員業務内容 (1)…1病棟、(2)…2病棟

時刻	勤務形態	児童日課	病棟職員の業務内容(看護・指導)
5:00	深夜勤務(看護師)	夜勤(保育士)	巡視、洗面準備、与薬準備、経管栄養準備、注入実施(2)
6:00		起床	起床、更衣、洗面、排泄介助、オムツ交換 バイタルチェック 経管栄養注入(2) 吸入
7:00		朝の集い、朝食、水分補給	与薬、処置、食事介助、登校準備
8:00	日勤(看護師)	登校	当直医報告、申し送り、オムツ交換、登校介助
8:30			
9:00	遅出日勤(看護師・保育士)	訓練	吸引器洗浄、リネン交換、環境整理、清掃、入浴準備、吸入準備、訓練後登校介助、車イス坐位保持清掃
9:30			
10:00	遅出日勤(看護師・保育士)	保育	衣類の整理と準備、保育、申し送り、カンファランス
11:00			
12:00	日勤(看護師・保育士)	下校検温、昼食	バイタルチェック、与薬、昼食介助、経管栄養注入(2)、吸入
13:00		登校、SST	登校介助、余暇指導
14:00	夜勤(保育士)	入浴、おやつ(2)、水分補給	入浴、おやつ介助、洗面準備、医療的ケア(処置)
15:00		訓練、講堂遊び、おやつ(1)、余暇指導	訓練送迎、オムツ交換、記録、おやつ介助
16:00	準夜(看護師・保育士)	SST、余暇指導、グループワーク	処置、申し送り、グループワーク(2)、経管栄養注入(2)、吸入実施(2)
16:30			
17:00	夜勤(保育士)	夕食、歯磨き	夕食介助、更衣介助、歯磨き指導、学校用吸引器洗浄、物品補充
17:15			
18:00	夜勤(保育士)	学習(1)	学習指導、バイタルチェック、吸入
18:15			
19:00	勤務(看護師)	水分補給	与薬、処置、排泄介助、オムツ交換、余暇指導
20:00		就寝準備、消灯(未就児)	就寝準備介助、朝の衣類・オムツ・登校の準備、当宿医報告、経管栄養注入(2)
21:00	保育(看護師)	就寝消灯	記録、日記添削、清掃、経管栄養注入(2)
22:00			巡視、体位交換
23:00	保育(看護師)		巡視、体位交換、
0:00			申し送り、経管栄養注入(2)
0:30	深夜勤務(看護師)		巡視、体位交換、検査準備、与薬準備
1:00			巡視、体位交換、検査準備、与薬準備
1:15	深夜勤務(看護師)		巡視、体位交換、検査準備
2:00			巡視、体位交換、検査準備、経管栄養準備、オムツ交換、更衣(2)、吸入準備
3:00	深夜勤務(看護師)		巡視、体位交換、検査準備
4:00			巡視、体位交換、検査準備、経管栄養準備、オムツ交換、更衣(2)、吸入準備

日勤 8:30~17:15 準夜 16:30~1:15 深夜 0:30~9:15 夜勤 14:30~9:00 遅出 9:30~18:15

日勤・準夜・深夜＝看護師、夜勤＝保育士、遅出日勤＝看護師・保育士

①生活指導

個々の障がいの状態と発達レベルや年齢に配慮しながら、入所児童各人の生活リズムを整え、食事・排泄・衣服の着脱等の基本的な生活習慣を身につけられるよう支援するとともに、集団生活の中の余暇時間を活用し、個別・グループ別に楽しみながら取り組める活動や季節の行事を組み入れる等の工夫により、児童の豊かな情操と社会性を育み、心身の成長と発達を促すよう努めている。

生活指導目標

- 1 個々の療育目標に応じた基本的な生活習慣を身につける。
- 2 集団生活をとおし、お互いを思いやり、協力して生活する。
- 3 余暇時間を楽しみながら生活する。

月間生活指導目標及び行事

月	月間指導目標	指導内容	主な行事
4	友だちと仲良くする	・入学、進級したことを自覚する ・友だちを思いやる ・センターでの生活を理解する	・入学 ・オリエンテーション ☆入学式 ☆始業式 ・保育始め ・児童会役員選挙
5	障がいを理解する	・入所目的を自覚する ・友だちを思いやる ・車椅子、補装具を大切にする	・児童会総会 ・春の遠足(未就学児)
6	時間を守る	・大きな声で挨拶、返事をする ・基本的な生活習慣を身につける ・規則正しい生活をする	・交流保育(未就学児) ・レクリエーション大会
7	目標を持って生活する	・暑さに負けず治療、訓練に励む ・夏休みを計画的に過ごす ・社会経験を積む	・七夕 ・保育参観 ・保育終了式 ・親子サマーレク ☆終業式
8	積極的に行事に参加する	・楽しく行事に参加する ・家族交流を大切にする	・花火を楽しむ会 ・夏季家庭訓練 ・保育始め ☆始業式
9	作り上げる喜びを知る	・生活の中で創意工夫をする	・お月見 ・お祭り ・秋の遠足(未就学児)
10	ものを大切にする	・身の回りのものを大切にする ・整理整頓をする	・運動会(未就学児)
11	感謝の気持ちを持つ	・身の回りの人に感謝する ・素直に“ありがとう”が言える	・本宮シンフォニックバンド定期演奏会
12	みんなで協力し合う	・みんなで協力しあい、楽しいクリスマス会にする ・家族交流を大切にする	・クリスマス会 ・保育終了式 ☆終業式 ・冬季家庭訓練
1	新たな気持ちで生活する	・伝統的行事を体験する ・毎日の生活を見直す	・保育始め ☆始業式 ・レクリエーション大会
2	自立に向けて取り組む	・自分でできることを確認し、努力する ・自分の進路をよく考える	・豆まき
3	自分をよく見つめ考える	・一年間をよく振り返ってみる ・新年度に向けての抱負を持つ ・家族交流を大切にする	・卒業、進級を祝う会 ・保育終了式 ☆卒業式 ☆入試 ・ひな祭り ・春季家庭訓練

☆学校行事

月の行事

児童会集会《第4月曜日》	あおぞら新聞発行《月1回》
誕生会《第3木曜日》	散髪《第4月曜日》※7月と1月は休み

週の行事

講堂あそび《火曜日》	パソコンクラブ《木曜日》
グループワーク《日～木曜日》	

②未就学児保育

保育目標

- ・センターでの治療・訓練の効果を相乗的に高め、入所している未就学児各人が楽しみながら生活できるよう支援する。

☆具体的な実施にあたっては、各人の障がいの状態や発達段階に応じた“感覚遊び”や“ポータージ”を積極的に取り入れ、年間保育計画及び月間保育カリキュラムに基づいて行なっている。

保育時間

月曜日から金曜日 10:00～11:30(火曜日のみ 10:30～11:30)

☆ 木曜日は通所棟と合同で、グループ別保育を実施

☆ 第2水曜日は音楽療法

月間保育実施状況

月	テーマ・ねらい	内 容
4	保育のリズムに慣れる	・保育始め ・職員や友だちに慣れる ・保育に参加する
5	自然の中でのびのび遊ぶ	・春の遠足 ・戸外遊びをとおして様々なことを体験する
6	地域の幼稚園との交流を体験する	・交流保育 ・交流会の雰囲気やいろいろな人との交流を楽しむ
7	夏の遊びに親しむ	・七夕会 ・保育参観 ・プール開き ・水などの感覚を体験する
8	夏の遊びに親しむ	・夏休み ・水などの感覚を体験する
9	季節の行事を体験し、秋の自然物に触れてあそぶ	・秋の遠足 ・月見 ・お祭り ・戸外で元気に遊ぶ ・季節の野菜などに触れながら感触を楽しむ
10	体を使って遊ぶ	・運動会 ・芋掘り ・体を動かす楽しさを味わう

11	自分の好きな遊びを見つける	・七五三 ・自分の好きなあそびで満足感を味わう
12	集団活動に参加する	・クリスマス会 ・友だちといっしょに活動する楽しさを味わう
1	手を使って遊ぶ	・いろいろな素材に触れ、感触を楽しむ
2	寒さに負けず遊ぶ	・雪あそび ・節分 ・雪の感触を楽しむ
3	楽しかった思い出を話す	・ひな祭り ・保育参観 ・保育修了式 ・身振りや声、泣くなど自分なりの方法で気持ちを表現する

③看護体制

看護配置基準 平成23年6月1日現在

障害者施設等入院基本料2(10対1)

特殊疾患入院施設管理加算 2病棟40床

看護単位

- ・ 第1病棟(50床)看護師長1名 看護職員15名
特性:小児整形外科的疾患の手術・後療法を中心としたリハビリ治療。
社会復帰を目標にリハビリ、生活指導、訓練に重点を置いて療育。
- ・ 第2病棟(40床)看護師長1名 看護職員16名
特性:重度重複障がい児が大半を占める。
医療的看護の必要度が高い
- ・ 外来 看護師長1名 看護職員8名

看護部理念

こどもと家族から信頼される療育を实践する。

看護目標

- 1 児童の安全に配慮し、個別性を大切にしながら情緒面とともに個々人の機能に応じた指導と援助により、積極的に治療・訓練が受けられるように働きかける。
- 2 児童の持つ能力を最大限に引き出し生活の質の向上を図り、心と体の成長と発達を促していく。
- 3 レクリエーション活動なども提供し、豊かな入所生活を送れるよう援助する。

④SST(社会生活技能訓練)

目的

障がいを持つ入所児が、＜自信を持って生き生きと地域の中で自立して生活する＞ためのコミュニケーション能力および生活技能の習得を目的とする。

活動内容

- ・対人コミュニケーション:挨拶・感謝・お礼、質問のしかた等
- ・生活関連動作 :道路の歩き方、信号機の見方、買い物のしかた等

実施対象児と活動時間

対象児: 主治医が必要と認めた児童(小学部の男子2名、女子1名)

時間: 毎週木曜日13:15~14:30(スタッフミーティング含む)

※地域における実習はこの時間枠に限定しない。

スタッフ

作業療法士1名、保育士1名、看護師2名、心理判定員2名の合計6名

方法

対象児の社会生活経験が極めて少ないため、スタッフが作成したビデオまたは、職員が手本を見せ、模擬的環境で練習し、地域で実習(プログラムと実施状況を参照)を行うという一連の流れを繰り返す方法をとった。また、家族との連携を取りやすくするため、各回毎に“SSTだより”を作成し、SSTで行った内容を家族に伝えた。

プログラムと実施状況

クール	内 容 (テーマ)	期 間	回数
1	<バスにのって駅前に行こう!> ①道路の歩き方 ②お金の見分け方 ③買い物の仕方④人へのもののたのみ方 ⑤バスののり方	H23. 5. 12~H23. 7. 21	10回
2	<モールに行っかいものをしよう> ①お金の使い方 ②電話のかけ方 ③福祉タクシーの利用の仕方	H23. 9. 1~H23. 12. 1	12回
3	<お客様を招待してティーパーティをひらこう!> ①話し合い ②電話をかけて招待状を配る ③買い物の仕方 ④ティーパーティを開く	H24. 1. 12~H24. 2. 23	8回

⑤自治活動

あおぞら児童会

集団生活のルールを守り、協力しあい明るく快適なセンター生活を送るとともに、クラブ活動や各種行事への参加をとおして責任感や自主性を養う。未就学児を除く入所児童全員で構成し、生活指導部職員が助言と指導にあたる。

a. 執行部

入所児童の中から立会演説及び選挙によって会長、副会長、書記の三役が選出任命される。児童集会、誕生会などの毎月定例で開催されるものや各種行事(レクリエーション大会、卒業進級を祝う会等)の準備・運営にあたる。

主な活動	時間・場所	活 動 内 容
児童集会	PM6:30 児童食堂	第4月曜日 月の目標の設定と反省 行事予定、クラブ報告、生活上留意点他
誕 生 会	PM6:30~ 児童食堂	第1病棟第3木曜日、児童会役員の司会 進行でその月の誕生児を祝う
	PM4:00~ たんぽぽ室	第2病棟第3木曜日、その月の誕生児を 祝う

児童会主催で行われる行事	児童会総会、レクリエーション大会、クリスマス会、卒業進級を祝う会	卒
--------------	----------------------------------	---

※その他行事開催にともなってその準備のための会議をその都度開催する

b. クラブ活動

	事 項	活 動 内 容
レクリエーションクラブ	レクリエーション活動の計画と実行	レクリエーション大会 卒業進級を祝う会
パソコンクラブ	毎週木曜日 PM4:00~5:00の 定期的活動	パソコンの基礎を学ぶ タイピング練習 クリスマス会の招待状作成 アルバム作成


⑥訓練部門

ア 理学療法

・週間予定表

	月	火	水	木	金
9:00～	入所児	入所児	入所児	入所児	入所児
9:45～					
10:30～					
11:15～					
13:15～			入所児	PT会議	入所児
14:00～					
14:45～	入所児	入所児		入所児	
15:30～			入所児		入所児
16:15～					療法士室会議

- ・第1・3週座位保持診(月)
- ・第2・4週術前・術後会議(火)
(8:30～9:00)
- ・補装具診(火)(13:30～)

 外来訓練・通所児訓練

- ・第1病棟リハ会議(木)
(8:30～9:00)
- ・第2病棟診(火)(9:00～)
- ・第4週(木)
 - 運営会議
 - 感染対策委員会
 - 安全管理委員会

・入所・理学療法疾患別対象児数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺(リスクを含む)	33	26	22
その他の脳原性疾患	9	9	12
二分脊椎・脊推疾患	0	1	1
進行性神経・筋疾患	2	1	1
骨・関節疾患	25	19	11
染色体異常	3	3	3
(精神)運動発達遅滞	6	5	5
その他	0	1	2
計	78	65	57

イ 作業療法

・週間予定表

	月	火	水	木	金
9:00~	入所児	入所児	入所児	OT会議	入所児
9:45~					
10:30~					
11:15~					
12:00~	入所児	入所児	入所児		入所児
13:15~				入所児	入所児
14:00~	入所児	入所児	入所児	入所児	入所児
14:45~	入所児	入所児	入所児	入所児	入所児
15:30~	入所児	入所児	入所児	入所児	入所児
16:15~	入所児	入所児	入所児	入所児	療法士室会議

第1・3週

13:15~座位保持診

■ 外来訓練・通所児訓練

・疾患別対象児数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺	21	16	17
その他の脳性運動障害(※)	5	8	11
二分脊椎	0	0	0
先天性股関節脱臼	0	0	0
骨系統疾患	1	0	0
外傷後遺症	0	0	0
進行性神経・筋疾患	1	1	1
その他の整形外科	0	0	0
その他	4	1	0
計	32	26	29

※頭部外傷を含む

ウ 言語聴覚療法

・週間予定表

	月	火	水	木	金
9:00~	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科
9:45~	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科
10:50~	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科	耳鼻科
13:10~	入所児			医大	
14:15~					
15:20~				入所児	入所児
16:25~			入所児		

水曜日の耳鼻科は第1・第3のみ

ST1名医大兼務

■ 外来訓練

・疾患別対象児数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺	12	9	15
その他の脳性運動障害(※)	0	0	0
二分脊椎	0	0	0
先天性股関節脱臼	0	0	0
骨系統疾患	0	0	0
外傷後遺症	0	0	0
進行性神経・筋疾患	0	0	0
その他	0	0	0
計	12	9	15

エ 心理検査・療法

・本年度の特徴

入所児童に対する心理検査は随時実施しており、心因反応など情緒的な問題に対するケアを、カウンセリング、箱庭療法などで行っている。入所児童の減少により心理検査実施数は横這いで推移しており、心理療法実施数は減少傾向にある。

・年間件数

		21年度	22年度	23年度
心理検査	知能検査	3	1	1
	発達検査	0	4	4
	性格検査	1	0	0
	その他	1	1	1
心理療法	集団	0	0	0
	個人	33	3	3
	箱庭	3	0	0
	その他	0	0	0
計		41	9	9

⑦給食部門

各個人の発育や障害の程度を考慮し、過不足のない栄養と、喫食能力に合った食形態で提供している。

また、給食がセンターの生活において楽しい時間となるよう、献立の内容や盛りつけ等、入所児等に喜んでもらえるよう工夫している。

・ 平均給与栄養量

月平均 熱量・ 栄養素	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1日 平均
エネルギー (kcal)	1518	1557	1559	1546	1549	1565	1561	1556	1539	1568	1551	1573	1554
たんぱく質 (g)	66.3	67.5	66.9	67.7	67.5	66.9	67.9	67.4	67.0	67.9	67.1	68.3	67.4
脂 質 (g)	44.6	47.9	49.2	48.6	48.3	48.1	47.5	48.3	47.2	48.4	49.2	49.2	48.0
炭水化物 (g)	210.5	211.8	210.8	208.4	208.9	214.2	212.4	209.8	207.8	212.6	207.4	210.3	210.4
カルシウム (mg)	612	662	667	650	658	652	658	655	657	670	651	653	654
鉄 (mg)	8.8	9.0	9.1	8.9	9.4	9.2	9.3	9.5	9.0	9.4	9.4	9.5	9.2
ビタミンA (μ gRE)	566	739	672	712	697	654	657	679	656	670	646	627	665
ビタミンB1 (mg)	1.03	1.00	1.00	1.04	1.03	1.06	1.03	1.06	1.04	1.55	0.98	1.00	1.07
ビタミンB2 (mg)	1.26	1.28	1.31	1.31	1.30	1.32	1.31	1.29	1.32	1.53	1.26	1.31	1.32
ビタミンC (mg)	135	122	115	110	107	112	110	115	113	118	118	116	116
食物繊維 (g)	12.4	11.9	11.8	10.9	11.4	12.2	11.9	11.9	11.6	12.5	12.2	12.4	11.9
食塩相当量 (g)	6.9	7.0	6.5	6.8	7.0	6.9	7.0	6.8	6.9	7.0	7.0	7.1	6.9
炭水化物 エネルギー 比率(%)	55	54	54	54	54	55	54	54	54	54	53	53	54
脂 肪 エネルギー 比率(%)	26	28	28	28	28	28	27	28	28	28	29	28	28

※小学校中～高学年を基準とした給与量。

・ 食品群別平均給与量

単位(g)

食品群別 / 月平均		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1日あたり平均	
動物性食品	魚介類	生 物	59	62	58	58	60	50	62	54	56	56	59	57	58
		練り製品	9	7	5	7	9	9	7	8	9	7	9	10	8
		干 物	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0
	獣 鳥 鯨 肉 類		62	66	64	67	63	70	63	68	62	64	62	68	65
	牛乳・乳製品	牛 乳	154	252	252	257	252	257	256	253	246	251	260	252	245
		乳 製 品	26	65	70	69	62	75	59	55	63	64	54	60	60
	卵 類		49	46	50	53	52	55	48	50	53	54	53	54	51
野菜・果物類	野菜類	緑黄色野菜	113	118	111	120	121	120	117	116	116	111	112	109	115
		その他の野菜	188	192	188	166	177	182	169	180	167	189	183	188	181
		きのこ類	10	8	10	9	10	11	13	12	9	11	13	9	10
		野菜漬物	3	3	3	3	3	2	3	3	3	3	3	3	3
	海 藻 類		4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	芋類	芋	62	52	57	51	46	57	52	56	55	55	52	55	54
		こんにゃく	7	3	5	4	5	5	5	6	5	6	6	5	5
		で ん 粉	2	2	2	2	2	3	2	2	2	2	2	3	2
	果実類	柑 橘 類	25	10	7	6	10	13	17	26	33	34	30	13	19
		その他の果実	94	80	71	86	86	75	78	68	63	53	65	73	74
穀類	米		140	137	139	139	139	141	140	144	141	142	140	141	140
	小 麦		27	34	26	24	24	24	27	24	23	27	25	34	27
	大 麦 ・ 雑 穀		0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0
豆類	大 豆		1	1	1	0	1	1	1	1	1	2	2	3	1
	み そ		11	10	11	10	10	10	11	10	10	11	10	11	10
	大 豆 製 品		38	30	37	34	37	26	34	42	44	38	35	37	36
	そ の 他 の 豆 類		2	3	2	3	2	2	3	3	4	3	2	2	3
油脂類及び調味料	油 脂 類		15	15	15	14	14	13	14	13	12	14	14	13	14
	種 実 類		2	2	2	2	3	2	5	2	2	3	2	2	2
	砂糖及び甘味類		8	8	8	7	8	7	8	8	7	8	7	7	8
	調味料及び香辛類		28	30	27	28	30	27	27	29	29	32	28	29	29

※小学校中～高学年を基準とした給与量。

・給与栄養量

食品群別

食品群別		目標量 (g)	給与量 (g)
動物性食品	魚介類	生 物	50 58
		練り製品	6 8
		干 物	0 0
	獣鳥	鯨肉類	50 65
		乳製品	270 245
	卵	乳製品	25 60
野菜・果物類	野菜類	緑黄色野菜	100 115
		その他の野菜	200 181
		乾燥野菜	15 10
		野菜漬物	3 3
	海藻類	5 3	
	芋類	芋	60 54
		こんにやく	5 5
	果実類	でん粉	2 2
		柑橘類	30 19
		その他の果実	70 74
穀類	米	140 140	
	小麦	25 27	
	大麦・雑穀	0 0	
豆類	大豆	1 1	
	みそ	15 10	
	大豆製品	65 36	
	その他の豆類	2 3	
油脂類及び調味料	油脂類	10 14	
	種実類	3 2	
	砂糖及び甘味類	9 8	
	調味料及び香辛類	35 29	

エネルギー及び栄養素

	推定エネルギー 必要量 推奨量	給与量
エネルギー (kcal)	1500	1554
たん白質 (g)	60	67.4
脂質 (g)	45.0	48.0
炭水化物 (g)	200.0	210.4
カルシウム (mg)	650	654
鉄 (mg)	9.0	9.2
ビタミンA (μgRE)	550	665
ビタミンB ₁ (mg)	1.00	1.07
ビタミンB ₂ (mg)	1.20	1.32
ビタミンC (mg)	80	116
食物繊維 (g)	13.0	11.9
塩分 (g)	8.0	6.9
炭水化物エネルギー比率(50~60%)		54
脂肪エネルギー比率(20~30%)		28

※推定エネルギー必要量及び各栄養素の推奨量は、小学校中～高学年を基準とした。

・給食延人数

月	措置入所・契約入所					一般入所	短期入所	母子入所	通所	検食	合計
	常食	荒々きざみ	荒きざみ	きざみ	ペースト						
4月	805	394	310	526	243	162	3	0	23	90	2,556
5月	1,036	395	281	559	173	79	48	0	36	93	2,700
6月	1,279	500	239	593	90	29	55	0	40	90	2,915
7月	1,269	476	226	568	93	90	41	0	40	93	2,896
8月	749	441	147	485	162	103	22	0	14	93	2,216
9月	1,319	511	155	632	167	87	47	0	49	90	3,057
10月	1,303	491	162	631	164	61	31	0	51	93	2,987
11月	1,065	484	227	605	166	26	27	0	52	90	2,742
12月	1,027	506	224	636	170	94	26	0	40	93	2,816
1月	922	462	149	554	169	80	27	0	40	93	2,496
2月	1,120	475	156	620	164	66	30	0	60	87	2,778
3月	964	466	159	554	132	57	133	0	33	93	2,591
合計	12,858	5,601	2,435	6,963	1,893	934	490	0	478	1,098	32,750

きざみ:細かい刻み状 荒:5mm角の刻み状 荒々きざみ:1cm角の刻み状

ペースト:ペースト、ミキサー状

⑧入所関係統計資料

表1 入退所状況

・年間入・退所児数(4. 1～3. 31)

	21年度	22年度	23年度
入所	25(1)	19(1)	15(1)
退所	35(1)	20(1)	17(0)

():母子入所 再掲

・月別初日在籍児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	在籍延人数	1日平均
21年度	51	54	55(1)	56(1)	55	55	56	57	59	53	55	52	20,107(57)	55.1(0.2)
22年度	40	45	47(1)	46	43	44	45	46	47	42	42	40	16,118(60)	44.2(0.2)
23年度	38	37	38	39	41	43	42	41	40	39	39	39	14,501(0)	39.6(0)

():母子入所 再掲

・月別入所・退所児数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1日平均 在籍児数
入所	1	1	2	4	3	0	0	1	1	1	0	1	15	
退所	2	0	1	3	0	1	2	1	2	1	0	4	17	
在籍児数 (延)	1,131	1,170	1,146	1,196	1,298	1,290	1,298	1,194	1,249	1,194	1,131	1,176	14,501	39.6

():母子入所

表2 病類別構成 (各年度3月1日現在)

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺	24	20	17
その他の脳性運動障害(※)	14	12	16
ペルテス病	4	1	0
二分脊椎	1	1	2
先天性股関節脱臼	1	0	0
先天性内反足	0	0	0
骨系統疾患	1	1	1
外傷後遺症	0	0	0
進行性神経・筋疾患	1	1	1
その他の整形外科疾患	4	1	2
その他	2	3	0
計	52	40	39

※頭部外傷を含む

表3 ADL関係 在籍児童数:40 (平成24年3月1日現在)

	食 事	更 衣	排 泄	整 容	入 浴	歩 行
自 立	16	6	4	4	5	5
一 部 介 助	3	3	3	8	1	8
全 介 助	20	30	32	27	33	26

表4 学齢別構成 (各年度3月1日現在)

	21 年度	22 年度	23 年度
未 就 学 児	9	5	4
小 学 生	24	22	22
中 学 生	9	7	8
高 校 生	10	6	5
そ の 他	0	0	0
計	52	40	39

表5 居住地別構成（各年度3月1日現在）

		21年度	22年度	23年度
県北	福島市	10	5	6
	二本松市	4	2	1
	伊達市	3	1	1
	本宮市			
	伊達郡	1	2	1
	安達郡			
県北計		18(34.6%)	10(25.0%)	9(23.0%)
県中	郡山市	9	9	11
	須賀川市	2	2	2
	田村市	3	2	2
	岩瀬郡			
	石川郡	1		
	田村郡	1		
県中計		16(30.8%)	13(32.5%)	15(39.0%)
県南	白河市	4	4	4
	西白河郡	3	3	2
	東白川郡		1	
県南計		7(13.5%)	8(20.0%)	6(15.0%)
会津	会津若松市	3	2	2
	喜多方市	3	2	2
	耶麻郡			
	河沼郡		1	1
	大沼郡		1	
会津計		6(11.5%)	6(15.0%)	5(13.0%)
南会津郡		2(3.9%)	2(5.0%)	2(5.0%)
相双	相馬市			
	南相馬市	2	1	2
	相馬郡			
	双葉郡	1	1	
相双計		3(5.8%)	1(2.5%)	2(5%)
いわき市				
県外				
その他(不定)				
合計		52(100%)	40(100%)	39(100%)

表6 在所期間別構成（各年度3月1日現在）

	3ヶ月未満	3ヶ月以上 6ヶ月未満	6ヶ月以上 1年未満	1年以上 2年未満	2年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上	計
21年度	3	4	5	7	6	7	20	52
22年度	1	2	6	2	4	9	16	40
23年度	2	0	3	4	2	8	20	39

(2) 通所（通園児童療育）部門

本年度の特徴

就学前の幼児を対象としているが医療介護面における全身状態や、精神発達面の児童間の較差が大きくなってきている状態である。

療育目標

- 1 運動能力を発達させる
- 2 規則正しい生活リズムをつくる
- 3 基本的な生活習慣の自立
- 4 積極的・意欲的にやろうとする気持ちを育てる

日課表

時間	一日の活動内容	子供の活動のねらいと留意点
9:30	登園 検温	・保育に来たという気持ちを育て、安心して集団活動に入れるよう促す
9:45	健康チェック 排泄	・リハビリテーション科医師による診察、健康状態の把握。必要があれば外来受診の連絡調整
9:55	着席	・保育の始まりを意識する ・外来受診、訓練時間の確認
10:00	保育 朝の集い 呼名 歌 カンガワーク カリキュラムによる保育 はとぽっぽ体操 水分補給 ポーテージ 保育終了	・母子分離での設定保育 ・朝のあいさつをし母と別れる ・名前を呼ばれたことで、一定の反応を引き出す。 (繰り返し行うことで一定の反応を獲得する) ・始まりの歌、季節の歌、手あそびの歌 ・各自の出席ノットにシールを貼る ・テーブルの上でできる制作、簡単な遊びを中心に行う ・リズムに合わせて身体を動かす。 ・麦茶を飲む。母親以外の人からでも飲めるようにする。 ・個別カリキュラムにそって行う。 ・お母さんと呼ぶ、母との再会場面を大切にする。
11:20	自主訓練	みんなで励まし合って行う。
12:00	昼食 歯みがき指導	・手洗いの曲を流し手を洗って席に着く ・それぞれの座位保持装置やイスに座って母の介助のもと食事をする ・2学期より年長児は職員による食事指導 ・週間計画にそって歯科衛生士や職員による歯みがき指導を行う
13:15	保育 カリキュラムによる保育	・母子分離での設定保育 ・テーブルから離れ、動的な遊び、感覚遊びを中心とした保育 ・各月の行事、季節の行事も多く取り入れ、親にも知ってもらおう
14:15	保育終了	

①月間行事

月	ね ら い	主 な 行 事
4	・楽しんで保育に参加する ・新しい先生や友達を知る	・入所式 ・保育始め ・母親学習会 ・母親レクリエーション ・音楽療法
5	・自然の中で遊び、様々なことを体験する	・ケース会議 ・母親レクリエーション ・母親学習会 ・春の遠足（スペースパーク） ・音楽療法 ・公開保育
6	・地域の幼稚園との交流を通して、その雰囲気やいろいろな人とのかかわりあいを体験する。	・ケース会議 ・郡山養護学校見学 ・母親レクリエーション ・誕生会 ・音楽療法 ・富田幼稚園との交流保育
7	・水遊びを体験する。	・七夕まつり ・プール開き ・保育参観 ・音楽療法 ・保育終了 ・家庭訪問 ・保育始め
8		
9	・戸外で元気に遊ぶ。	・母親学習会 ・音楽療法 ・秋の遠足（猪苗代湖・カメ丸乗船） ・おみこしワッショイ
10	・身体を動かし楽しく遊ぶ	・母親レクリエーション・母親学習会 ・音楽療法 ・運動会 ・誕生会・公開保育
11	・自然のものに触れ、楽しく遊ぶ。	・七五三 ・誕生会 ・母親学習会 ・ケース会議・音楽療法 ・母親レクリエーション
12	・劇、歌、踊りなどをみんなの前で発表する	・母親学習会・音楽療法・ ・母親レクリエーション ・ケース会議・クリスマス会・保育終了
1	・正月の伝統遊びを体験する。	・保育始め ・母親学習会 ・福笑い、 双六、羽根つき ・団子さし ・音楽療法 ・ケース会議 ・誕生会 ・母親レクリエーション
2	・雪あそびをする。	・節分 ・母親学習会・ケース会議 ・音楽療法 ・豆まき ・母親レクリエーション
3	・共同製作を通して、個々の表現活動をする。	・ひなまつり・母親学習会・誕生会 ・音楽療法・母親レクリエーション ・お別れ会 ・卒所式 ・保育終了式

②母親教室

学 習 会

目的：保護者が子供の状態を正しく理解したり、よりよい接し方やケアの方法を学ぶ手助けとなるよう、講話や見学などの機会を提供する。

レクリエーション

目的：保護者同士の交流を目的とし、同時に気分転換、リラクゼーションを図り、保護者同士の連帯感を深める。

月	学 習 会	レクリエーション
4	1年間の活動計画・目標・自己紹介	親子紹介カード作成
5	歯科衛生士講話	散歩（保護者のみ）
6	郡山養護学校見学	講堂遊び（親子）
7		
8		
9	先輩お母さんと語る会	敬老の日のプレゼント作成
10	保健師講話	散歩（保護者のみ）
11	小児科森田 Dr、講話	クリスマス会の出し物を決める
12	施設見学（南東北さくら館『さくらんぼ』）	クリスマス会の準備
1	栄養士講話	風船バレー大会（親子）
2	保護者のメンタルケアについて	卒所に向けての制作
3	今年度の反省と次年度の計画	お別れ会

③通所関係統計資料

表 1 疾患別構成（各年度3月1日現在）

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺	1	1	2
その他の脳性運動障害	5	4	4
運動発達遅滞	2	1	0
進行性神経・筋疾患	0	0	0
染色体異常	1	0	0
奇形症候群	0	0	0
その他	0	0	0
計	9	6	6

表 2 退所後の進路

	21年度	22年度	23年度
普通小学校	0	0	0
普通小学校（養護学級）	0	0	0
養護学校（知的障害）	0	0	0
養護学校（肢体不自由）	3	2	3
盲学校	0	0	0
保育所	0	0	0
幼稚園	0	0	0
その他	1	1	0
計	4	3	3

表3 居住地別構成

		21年度	22年度	23年度
県北	福島市	2	1	1
	二本松市			
	伊達市			
	本宮市			
	伊達郡			
	安達郡		1	1
	県北計	2(22.2%)	2(33.3%)	2(23.3%)
県中	郡山市	5	4	4
	須賀川市			
	田村市	1		
	岩瀬郡			
	石川郡	1		
	田村郡			
	県中計	7(77.8%)	4(66.7%)	4(66.7%)
県南	白河市			
	西白河郡			
	東白川郡			
	県南計	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
会津	会津若松市			
	喜多方市			
	耶麻郡			
	河沼郡			
	大沼郡			
	会津計			
	南会津郡			
相双	相馬市			
	南相馬市			
	相馬郡			
	双葉郡			
	相双計			
	いわき市			
	県外			
	その他(不定)			
	合計	9(100%)	6(100%)	6(100%)

表4 通所・理学療法疾患別対象児数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺(リスクを含む)	1	1	2
その他の脳性運動障害	5	3	2
二分脊推・脊推疾患	0	0	0
進行性神経・筋疾患	0	0	0
骨・関節疾患	0	0	0
染色体異常	1	1	1
(精神)運動発達遅滞	1	1	1
その他	1	0	0
計	9	6	6

表5 作業療法年間疾患別対象児数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺	4	2	2
その他の脳性運動障害	2	2	2
運動発達遅滞	1	1	1
進行性神経・筋疾患	0	0	0
染色体異常	1	1	1
奇形症候群	0	0	1
その他	1	0	0
計	9	6	7

表6 言語聴覚療法年間疾患別対象児数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺	2	2	3
その他の脳性運動障害	0	0	0
運動発達遅滞	0	0	0
進行性神経・筋疾患	0	0	0
染色体異常	0	1	1
奇形症候群	1	0	0
その他	0	0	1
計	3	3	5

表7 心理検査年間件数

	21年度	22年度	23年度
知能検査	0	0	0
発達検査	24	19	19
性格検査	0	0	0
その他	0	0	0
計	24	19	19

(3) 母子入所部門

障がいに対する早期療育の目的で、痙性麻痺を呈する乳幼児に対して概ね2ヶ月にわたり、手術、後療法、保育、母親教室（医療面、福祉面、栄養指導など）を行っている。

日課表

時刻	児 童 日 課
7:00	朝食
9:00	回診（木）自主訓練
10:00	※保育（木曜日合同保育）
12:00	昼食

時刻	児 童 日 課
13:30	入浴（月・金）自主訓練
17:00	夕食
21:00	消灯

※ 保育：センター内検討会で適否を決定

2. 診療相談

(1) 一般入所の概要

本年度の特徴

一般病院への入院と同様で、おもに小児整形外科領域の手術を受けるための入所が多く、対象疾患として先天性股関節脱臼、先天性内反足、大腿骨頭すべり症、ペルテス病、脳性麻痺など多岐にわたる。最近ボトックス療法も取り入れられている。また、短時間の小手術を行う場合、本人、家族の負担の軽減のため、日帰り入所も行っている。

(2) 外来患者の概要

診療予定表（23. 4. 1現在）

受付 午前8時30分～午前11時30分

午後1時00分～午後4時00分

	月		火		水		木		金		備 考
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	
整形外科	○	○	○	○	○		○				月曜午後は第1、3週のみ
小児科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
精神科				○				○	○	○	
耳鼻咽喉科	○	○	○	○	○	○	○	○			水曜日は第2、4週（又は3週）のみ
眼科					○						第1、3週（又は4週） 水曜 午前のみ
泌尿器科						○					第2、4水曜 午後のみ
歯科			○	○	○	○	○	○	○	○	

①年間外来診療件数（4.1～3.31）

		21年度	22年度	23年度
医科	整形外科	4,205	3,965	4,145
	小児科	7,580	7,319	7,194
	耳鼻咽喉科	3,058	2,145	2,325
	精神科	2,306	2,031	1,952
	眼科	529	437	481
	泌尿器科	84	71	106
歯科		2,919	2,417	2,574
訓練	リハビリテーション科	13,535	11,890	10,843
	理学療法			
	作業療法			
	言語療法			
計		34,216	30,275	29,620

②年間新患状況 (4.1~3.31)

・病類別構成

病 類		21年度	22年度	23年度
骨・ 関節 疾患	骨系統疾患	0	2	5
	筋性斜頸	0	2	4
	先天性股関節脱臼	15	26	31
	先天性多発性関節拘縮症	2	1	4
	脊椎変形	7	5	6
	下肢疾患(足部を除く)	20	31	20
	足部変形	21	14	11
	その他	19	25	17
脳性 麻痺	脳性麻痺	24	26	24
発達 障害	精神発達遅滞	146	136	105
	運動発達遅滞	12	30	15
	精神運動発達遅滞	2	3	3
	広汎性発達障害	97	110	123
	その他	50	39	32
性 疾 患	てんかん	13	12	10
	その他	1	0	1
後 遺 症	頭部外傷	0	0	0
	脊椎損傷	1	1	0
	神経感染症	4	3	1
	無酸素性脳症	6	4	4
	脳血管障害	3	4	0
	末梢神経損傷	3	0	0
先 天 異 常	脳奇形	2	2	1
	二分脊椎	0	2	2
	奇形症候群	4	6	0
	染色体異常	11	12	7
	その他	3	0	2
進 行 性 疾 患	筋疾患	3	1	3
	脊髄・神経疾患	0	0	0
	その他	0	0	0
言 語 聴 覚 障 害	特異的言語発達	19	28	37
	機能性構音障害	49	54	46
	難聴	77	86	103
	吃音	0	6	2
	その他	0	0	0
そ の 他	整形外科	24	25	34
	小児科	18	26	14
	精神科	28	30	19
	耳鼻咽喉科	24	17	14
	眼科	7	8	10
	泌尿器科	4	0	0
	歯科	52	58	0
合計		768	835	710

・年齢別構成（歯科を除く）

	21年度	22年度	23年度
1歳未満	64	77	67
1歳	68	82	55
2歳	68	68	53
3歳	142	141	161
4歳	63	64	72
5歳	66	63	57
6歳～12歳	155	169	159
13歳以上	90	113	86
計	716	777	710

・居住地別構成（歯科を除く）

	21年度	22年度	23年度
福島市	63	68	52
二本松市	47	60	58
郡山市	225	214	199
須賀川市	41	46	44
白河市	32	34	41
会津若松市	22	27	28
喜多方市	5	8	6
相馬市	2	7	5
原町市			
いわき市	28	25	12
田村市	11	10	14
南相馬市	18	16	13
伊達市	13	13	18
本宮市	48	74	60
伊達郡	6	6	12
安達郡	22	17	16
岩瀬郡	11	9	7
田村郡	14	11	19
石川郡	11	22	15
西白河郡	20	21	25
東白川郡	28	33	33
耶麻郡	13	14	3
河沼郡	4	3	2
大沼郡	4	0	1
南会津郡	2	2	2
相馬郡	0	2	0
双葉郡	18	28	21
県外	8	7	4
計	716	777	710

(3) 整形外科

本年度の特徴

福島医大との連携のもと、福島県の障がい児医療、小児整形外科医療の中核としての役割を担っている。小児整形外科全般にわたる外来・入所治療、手術療法を行っている。特に小児股関節、軟部組織の異常の診断においては従来のX線撮影の他、侵襲の少ない超音波（エコー）を取り入れるようになった。

また、脳性麻痺の痙性麻痺に対しボツリヌス毒素を用いた治療も行っている。

①年間診療件数

21年度	22年度	23年度
4,205	3,955	4,145

②疾患別初診件数

	21年度	22年度	23年度	
脳性麻痺（リスクを含む）	23	24	14	
その他の脳原性疾患	13	17	11	
運動発達遅滞	20	21	15	
精神遅滞	4	6	5	
足変形	27	19	12	
先天性股関節脱臼	8	14	16	
臼蓋形成不全	6	9	9	
開排制限	2	3	9	
染色体異常	ダウْن症候群	11	9	7
	その他の染色体異常	2	2	1
下肢変形	14	23	15	
歩容異常	4	5	6	
四肢奇形	3	5	1	
手指変形	0	0	3	
筋性斜頸	1	3	4	
脊椎側彎症	9	6	4	
ペルテス病	8	5	0	
大腿骨頭すべり症	3	4	3	
二分脊椎	1	4	6	
骨系統疾患	0	4	3	
進行性神経・筋疾患	3	0	6	
先天性多発関節拘縮症	1	2	1	
脊髄損傷	0	0	1	
頭部外傷後遺症	0	0	1	
その他	51	57	73	
合計	214	242	226	

③疾患別手術件数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺	11	11	8
先天性股関節脱臼	8	2	5
先天性内反足	9	3	3
筋性斜頸	1	3	0
四肢外傷後遺症	0	0	0
二分脊椎	3	1	3
先天性多発性関節拘縮症	3	0	0
先天性奇形	0	0	0
大腿骨頭すべり症	9	3	5
ペルテス病	9	5	1
滲出性中耳炎	0	0	1
その他	18	23	23
計	71	51	49

④補装具処方数

	21年度	22年度	23年度
義肢	1	2	1
上肢装具	0	1	0
体幹装具	8	4	3
下肢装具	236	190	197
ペルテス病装具	3	2	0
先天股脱装具	5	8	8
内反足装具	13	5	3
車椅子	104	92	84
電動車椅子	5	4	4
座位保持装置	87	76	80
歩行器	19	13	17
頭部保護帽	8	7	4
歩行補助杖	1	3	1
その他	6	6	2
計	497	413	404

(4) 小児科

本年度の特徴

週1回、福島県立医科大学附属病院小児科からの支援を得て、外来診療を行っている。センター内での耳鼻咽喉科、発達障がい者支援センター（精神科外来を含む）の専門性の特化が進み、少子化の時代にもありながら、初診数、相談件数ともに減少には至らず、発達遅滞を含む、発達障害中心の外来となっている。一方で肢体不自由、先天性疾患、後遺症障害等はほぼ横ばいである。

① 年間診療件数

21年度	22年度	23年度
7,580	7,319	7,194

② 疾患別初診件数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺（リスクを含む）	15	13	15
精神遅滞	138	138	97
運動発達遅滞	15	22	15
けいれん性疾患	15	7	7
広汎性発達障害	76	66	79
LD・ADHD	6	14	9
頭部外傷後遺症	0	0	0
神経感染症後遺症	10	2	1
無酸素性脳症後遺症	2	3	4
脳血管障害	3	3	0
脳奇形	3	0	1
二分脊椎	1	0	0
奇形症候群	4	2	0
染色体異常	12	7	7
神経・筋疾患	5	2	1
言語発達遅滞	22	20	33
機能性構音障害	23	19	8
難聴	7	0	1
その他	28	33	22
計	385	351	300

(5) 耳鼻咽喉科

本年度の特徴

新生児聴覚スクリーニングがはじまったことにより、生後2ヶ月～3歳児の新患が増加している。その後も補聴器関係で再診が多い。

①年間診療件数

21年度	22年度	23年度
3,058	2,145	2,325

②患別初診件数

	21年度	22年度	23年度
難聴(疑いを含む)	153	185	186
構音障害	41	8	24
耳介外耳道奇形	7	3	0
言語発達遅滞	18	3	6
口唇・口蓋裂	1	1	0
耳垢栓塞	6	1	12
中耳炎・鼻炎・アレルギー性鼻炎	19	13	13
副鼻腔炎	6	3	8
鼻咽腔閉鎖不全症	0	0	1
その他	77	0	13
計	328	217	263

(6) リハビリテーション科

本年度の特徴

震災の影響で県外へ避難し、訓練が終了・中断した児もいる。

①年間診療件数

21年度	22年度	23年度
13,535	11,890	10,843

②理学療法

本年度の特徴

震災後、避難等により通所困難になり、終了、中断を余儀なくされたケースがあった。

ア 新規処方数

21年度	22年度	23年度
83	67	62

イ 疾患別対象児数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺（リスクを含む）	157	154	151
その他の脳原性疾患	86	79	81
二分脊椎・脊椎疾患	12	12	18
進行性神経・筋疾患	20	21	22
骨・関節疾患	9	5	4
染色体異常	28	25	21
（精神）運動発達遅滞	59	48	56
その他	14	11	11
計	385	355	365

ウ 訓練開始時年齢

年 齢		21年度	22年度	23年度
0歳	0～5ヶ月	18	14	17
	6～11ヶ月	77	72	65
1歳	12～17ヶ月	73	61	63
	18～23ヶ月	57	55	54
2歳		36	36	32
3～5歳		62	47	58
6～12歳		54	55	61
13歳～		8	15	15
計		385	355	365

③作業療法

本年度の特徴

患児1名に対して月0.68回の実施回数となっている

ア 新規処方数

21年度	22年度	23年度
103	93	81

イ 疾患別対象児数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺（リスクを含む）	68	64	55
その他の脳原性疾患	48	45	47
二分脊椎・脊椎患者	1	0	0
進行性神経・筋疾患	2	3	1
骨・関節疾患	2	1	0
染色体異常	27	22	25
（精神）運動発達遅滞	112	106	100
広汎性発達障害	133	135	156
その他	16	16	14
計	409	392	398

ウ 訓練開始時年齢

		21年度	22年度	23年度
0歳	0～5ヶ月	0	0	0
	6～11ヶ月	4	4	4
1歳	12～17ヶ月	16	16	13
	18～23ヶ月	26	19	22
2歳		94	96	98
3～5歳		205	199	208
6～12歳		62	57	52
13歳		2	1	1
計		409	392	398

④言語聴覚療法

訓練と検査を含めた新規処方数新規処方と継続を含めた対象児数は、
1,087名、訓練と検査を行った延件数は4,071人であった。
人工内耳装用児の増加が目立った。

ア 新規処方数

21年度	22年度	23年度
469	418	369

イ 言語障害別対象児数

	21年度	22年度	23年度
脳性麻痺（リスクを含む）	46	28	24
精神（運動）発達遅滞	270	255	298
聴覚障害	難聴	400	397
	（人工内耳）	(41)	(61)
広汎性発達障害	223	209	139
その他の発達障害（ADHD・LDを含む）	69	65	46
機能性構音障害	72	69	56
吃音	12	7	7
てんかん	20	12	7
染色体異常	29	26	30
口唇・口蓋裂	11	9	6
その他の先天異常	21	17	9
後遺症	5	8	6
進行性疾患	2	2	1
その他	31	44	16
合計	1,211	1,148	1,087

⑤心理検査・療法

本年度の特徴

小児科のオーダーによる発達評価が心理検査のかなりの部分を占めている。対象は身体的な合併を伴う場合も含め、MR、広汎性発達障害、ADHDなどの発達障害を有する児であり、おおよそ半年～2年の間隔で実施している。

心理療法はほとんどが心の発達相談室（精神科）のケースで、対象疾患は緘黙、軽度発達障害の二次障害などである。

		21年度	22年度	23年度
心理検査	知能検査	758	788	779
	発達検査	760	578	540
	性格検査	0	0	0
	その他	750	742	748
心理療法	集団	0	0	0
	個人	18	23	16
	箱庭	6	7	3
	その他	0	0	0
計		2,292	2,138	2,086

(7) その他の診療科

① 歯科

担当医 療育センター歯科協力会

本年度の特徴

齲蝕症で受診した患者には、歯肉炎を併発している割合が多い。

入所児、養護学校寄宿舎に対して定期的に歯みがき指導を行っている。

ア 年間診療件数

21年度	22年度	23年度
2,939	2,417	2,574

イ 疾患別初診児数

	21年度	22年度	23年度
外傷	0	1	1
齲蝕症	39	32	30
歯髄炎	2	0	2
根尖性歯周炎	0	0	0
歯肉炎	26	8	13
歯周炎	0	3	3
咬合異常	0	0	1
欠損	2	1	0
その他	0	6	8
計	72	51	58

② 眼科

本年度の特徴

受診児の多くが、屈折異常や斜視で精根的に眼鏡の装用を指導し視機能の向上を目指している。

ア 年間診療件数

21年度	22年度	23年度
529	437	481

イ 疾患別初診児数

	21年度	22年度	23年度
屈折異常	36	26	48
斜視	9	5	9
視覚発達遅延	2	4	1
眼底・視神経疾患	0	0	0
先天異常	0	8	2
眼振	0	0	0
結膜炎	2	0	1
眼瞼内反症	1	1	2
一般	1	2	2
その他	5	3	7
計	56	49	72

③ 泌尿器科

本年度の特徴

患者の多くは、二分脊椎、脊髄損傷等による神経因性膀胱の患児である。

定期的な診察と検査(検尿・エコー・膀胱造影)を行いフォローしている。

また、小児科より夜尿症の紹介も増加している。

ア 年間診療件数

21年度	22年度	23年度
84	71	106

④ 精神科

本年度の特徴

発達障害の患者が増加している。特に発達障害の中でも、注意欠陥多動性障害(A DHD)や、広汎性発達障害(自閉症、アスペルガー症候群)、また、発達障害に情緒障害や不適応行動などの合併症が増加している。

ア 年間診療件数

21年度	22年度	23年度
2,306 (140)	2,031 (135)	1,952 (120)

() : 新患者 再掲

(8) 薬剤部、臨床検査、放射線、地域連携室

①薬剤部

ア 年間処方件数

	21年度	22年度	23年度
外来	5,202	4,605	4,705
入所	3,029	2,854	3,081
計	8,231	7,459	7,786

②臨床検査

ア 年間臨床検査数

	21年度	22年度	23年度
血液・生化・血清検査	8,902	7,166	7,183
尿検査	3,667	2,681	3,125
細菌検査	400	281	104
電気生理検査	378	347	287
病理学検査	1	2	4
その他	65	35	44
計	13,413	10,512	10,747

③放射線室

ア 年間撮影件数

		21年度	22年度	23年度
一般撮影	外来	1,966	1,799	1,854
	入所	828	646	496
CT撮影	外来	157	113	71
	入所	12	18	10
計		2,963	2,576	2,431

④地域支援室

平成17年4月から設置（理学療法士・作業療法士・保健師で構成）

ア 肢体不自由児地域リハビリテーション支援事業

平成17年度から、地元の医療機関で継続した訓練が受けられるよう、理学療法士や作業療法士などが応援スタッフとして赴き技術支援を実施している。

実施地域	実施医療機関	登録者数（人）		実施回数（回）	実施人数（人）			
		理学療法	作業療法		理学療法		作業療法	
					実	延	実	延
相双	南相馬市立総合病院	3	1	13	3	20	1	8
	双葉厚生病院							
南会津	県立南会津病院	8		22	8	102		
県南	※塙厚生病院	11		23	11	116		
計		22	1	58	22	238	1	8

※東日本大震災により双葉厚生病院は休止、・南相馬市立病院は4月～7月まで休止し、8月から事業を再開した。

イ 保健・医療・福祉相談

電話や面接形式で保健・医療・福祉に関するあらゆる相談を受けている。相談内容としては、在宅療養支援サービスの1つである「短期入所事業に関する相談」や「治療・訓練目的の入所（通所）相談」、「児の発達に応じて集団・個別療育施設の情報を得るなど個々に応じた療育支援を求める相談」などが多い。

これらの相談に対し、情報提供を含めた助言、及び児童相談所をはじめとした地域の保健・医療・福祉担当者と連携した対応を行っている。

なお、福祉制度や各種施設関係の資料を整備し保護者などが自由に持ち帰りができるようにしている。具体的な福祉サービス利用については各自治体担当窓口が対応している。

(件)

相談内容 \ 手段	電話	面接	計
短期入所事業に関するもの	315	155	470
措置入所・通所に関するもの	92	66	158
医療給付に関するもの	16	20	36
福祉制度に関するもの	18	11	29
療育に関するもの	86	40	126
その他	11	1	12
計	538	293	831

3 短期入所事業及び日中一時支援事業

本年度の特徴

繰り返しの利用が多く見られた。

・利用状況（利用定員 5人/日）

		21年度	22年度	23年度	
新規契約数		10	10	13	
利用内訳	宿泊	実人数	38	36	42
		件数	63	56	132
		延べ日数	239	190	397
	日帰り	件数	68	84	82
		延べ日数	94	123	143

4 その他

(1) 実習生・ボランティア受入

理学療法臨床実習 実人数 2人、受入延日数 67日、

作業療法臨床実習 実人数 2人、受入延日数 62日（その他見学2名2日）

看護実習 実人数 96人、受入延日数 264日

保育実習 実人数 10人、受入延日数 103日（見学実習 38名1日）

ボランティア JICA 二本松

富田町ボランティアセンター

歯科実習生 実人数 15名 受入延日数 45日

(2) 公開講座

療育に関する知識を啓蒙するために、だれでも参加できる「公開講座」を開催している。

日 時：原則毎月第2金曜日 午後4時～

場 所：総合療育センター会議室

参加費：無料

平成23年度

月 日	講 師	講 座 の 内 容
4月	医師（整形外科）	脳性麻痺における股関節脱臼
5月	心理判定員	子どもの自立を育む～発達障がいのお子さまへの関わり
6月	保健技師	短期入所事業及び日中一時支援事業の活用について
7月	保健技師	障害基礎年金の手続きについて
7月	医師（精神科）	不登校と発達障がいについて
8月		休 み
9月	作業療法士	子どもの気になる行動への関わり方
10月		休 み
11月	言語聴覚士	子どもの発達の土台作り
12月	医師（耳鼻科）	言葉の遅れと耳鼻咽喉科疾患
1月		休 み
2月		休 み
3月		休 み

Ⅲ 研究成果等

第56回全国肢体不自由児療育研究大会

○障害者スポーツ「ポッチャ」を通じて社会参加が増えた一例

理学療法士 高橋 顕

○長期入所児の退所支援、調整を考える

看護師 和知 陽子

○レントゲン検査を受ける障害児の保護者の実態

看護師 園部 律子

第56回日本聴覚医学会学術講演会

人工内耳手術年齢による言語発達検査の検討
～感覚器障害戦略研究・症例対照研究結果から～

言語聴覚士 山田奈保子

平成23年度看護協会郡山支部看護研究発表会

○超重症心身障害児の保育参加に向けて

看護師 嶋 美智

IV 発達障がい者支援センター

1 設立の目的

当センターは、発達障害者支援法に基づく支援機関である。福島県在住の自閉症などの発達障がいのある方やその家族が安心して暮らすための支援をするとともに関係機関と連携を図りながら身近な地域での支援体制の整備を目的としている。

2 発達障がいとは

発達障害者支援法では自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの脳機能の障害で通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものとされている。(発達障害者支援法第2条)

3 業務内容

(1) 相談支援

日常生活等に関わる相談を受け、助言や福祉サービスの情報提供を行う。

(2) 発達支援

発達の状態について、医学的な診断や発達検査等による評価を行い、発達障がい者及びその家族や関係機関に対して助言を行う。

(3) 就労支援

就労を希望する発達障がい者に対して就労に向けての必要な相談を行うとともに、必要に応じて労働関係機関と連携を図る。

(4) 普及・啓発活動

発達障がいについての正しい情報や社会的支援の必要性について、より多くの方々に理解していただけるよう普及・啓発を行う。

4 実施件数

(1) 相談支援

年齢層	実支援人員
0～3歳(乳幼児前期)	56
4～6歳(乳幼児後期)	50
7～12歳(小学生)	56
13～15歳(中学生)	24
16～18歳	23
19歳以上	131
不明	8
合計	348

相談内容	延支援件数
情報提供(診断・療育・就労支援等の機関・施設紹介)	161
家庭生活(家庭療育・余暇・不適応行動)	24
健康・医療(自閉症ではないか、告知後の不安、不眠、薬物治療等)	143
教育(学校での不適応・教育内容)	7
療育支援(療育施設での療育内容・方法・不適応行動)	7
進路相談	2
自立支援(福祉施設での自立訓練・不適応)	1
就労について(本人以外からの相談)	3
その他	32
合計	380

(2) 発達支援

年齢層	実支援人員
0～3歳(乳幼児前期)	46
4～6歳(乳幼児後期)	74
7～12歳(小学生)	51
13～15歳(中学生)	7
16～18歳	1
19歳以上	14
不明	
合計	193

障がい種別		実支援人員
自閉症	(知的障害を伴う者)	13
	(知的障害を伴わない者)	25
	(知的障害の有無不明)	0
アスペルガー症候群		2
広汎性発達障害	(知的障害を伴う者)	23
	(知的障害を伴わない者)	49
	(知的障害の有無不明)	2
注意欠陥多動性障害 (AD/HD)		1
学習障害 (LD)		
その他(発達性言語障害・協調運動障害・知的障害等)		1
不明(未診断も含む)		77
合計		193

(3) 就労支援

年齢層	実支援人員
18歳未満	0
18歳以上	3
合計	3

障がい種別		実支援人員
自閉症	(知的障害を伴う者)	
	(知的障害を伴わない者)	
	(知的障害の有無不明)	
アスペルガー症候群		2
広汎性発達障害	(知的障害を伴う者)	
	(知的障害を伴わない者)	
	(知的障害の有無不明)	
注意欠陥多動性障害 (AD/HD)		
学習障害 (LD)		
その他(発達性言語障害・協調運動障害・知的障害等)		
不明(未診断も含む)		1
合計		3

(4) 普及・啓発活動

	実施回数	延参加人数
センター主催で企画した研修(実施状況別紙)	6	87
外部から講師依頼を受けた研修(講師派遣)	2	12

(5) 関係施設・関係機関等との連携

	実施回数	延参加団体数
調整会議	6	106

(6) 機関コンサルテーション

対象機関	実支援箇所数
保育所	4
幼稚園	6

1 発達障がい者支援センター主催研修実施状況

(1) 家族のためのワークショップ事業

対象者：発達障がいまたは発達障がいの疑いのある方の家族

- 内 容： ①発達障がいとは
 ②サポートブックの記載方法
 ③作成実習・情報交換

実施月日	実施場所	参加者数
平成 23 年 9 月 28 日(水)	會津稽古堂	13
平成 23 年 10 月 26 日(水)	福島市保健福祉センター	14
平成 23 年 11 月 30 日(水)	相馬市総合福祉センター	9
平成 23 年 12 月 7 日(水)	いわき市総合保健福祉センター	11
平成 24 年 1 月 1 8 日(水)	白河市中央保健センター	23

(2) 発達障がい専門療育力向上事業

対象者：発達障がい児(者)の支援機関(児童デイサービス事業所、障害福祉サービス事業所等)

内 容：事例検討会を実施し、地域の専門家に助言を依頼する。

実施月日	事例提供機関	助言者	参加者数
平成 23 年 11 月 16 日 (水)	児童デイサービス事業所 桜が丘学園エンジェル園	福島大学大学院人間発達文化研究科 学校 臨床心理学専攻 教授 内山 登紀夫 先生	17

2 被災した障がい児に対する医療支援事業実施状況

内容：東日本大震災又はそれに伴う原発事故により避難している、発達障がいの疑いのある児童について、来所又は巡回により診察を行う。

(1) 来所相談 8回 8名

(2) 巡回相談 6回 12名

(いわき市4回8名、南相馬市1回2名、相馬市1回2名)